170. TCR3030における マニュアル収録の検討

Study of Manual Mode Recording System of TCR3030

栃木県立がんセンター放射線技術部

○ 萩原 芳広

HAGIWARA YOSHIHIRO

大森 哲也

OOMORI TETUYA

野沢 幸二

NOZAWA KOUJI

山田 行雄

YAMADA IKUO

小野田 彰

ONODA AKIRA

【目的】

当センターでは術後患者の胸部ポータブル撮影はCR対応となっている。今回、TCR3030
マニュアル収録ソフトの比較評価を行ったので報告する。

(マニュアル収録とは、ROIの大きさ、位置、出力濃度が任意に設定できるソフトである。)

【方法】

(Fig 1)

1、収録モード別による検討。

術後患者胸部ポータブル撮影において起こり得る、胸水状態、患者撮影位置、撮影距離をファントムを使って再現しその濃度変化により評価を行った。

2、F/S系との比較。

胸水回復状態の濃度変化により評価を行った。

3、胸部状態がいかなる場合においても使用出来るようにROI位置と濃度についても検討した。

Fig 2

Fig 3

Fig 1

Fig 4

Fig 5

部 位	ファントム	臨床写真
肩甲骨	0.58	0.44
胸椎	0.68	0.41
腰椎	0.33	—
心陰影	0.68	—
被写体外	2.69	2.69

Fig 6

【結果】

1、マニュアル収録モードは、他の収録モードよりも、胸水状態、撮影位置、撮影距離に左右されずに安定した濃度の写真が得られた。(Fig 2、Fig 3、Fig 4)

2、ROI位置設定の誤差により、FIX収録モードの方がマニュアル収録モードよりも、F/S系に近い動きをしている。(Fig 5)

3、表に示すとうりであるが、各施設による適正濃度の検討が必要である。(Fig 6)

【考察】

右の写真は左肺尖部のあたりを残して、胸水が溜まった状態を再現したAUTO収録モードとマニュアル収録モードの胸部ファントム写真です。CRの読み違いにより、AUTO収録モードは正常肺野の方を黒くつぶしていました。

このような場合にもマニュアル収録モードは使用できますから今後いろいろな撮影についても検討が必要と思われます。(Fig 7)

Fig 7